

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 登録実用新案公報 (U)

(11) 実用新案登録番号
実用新案登録第3141703号
(U3141703)

(45) 発行日 平成20年5月22日 (2008. 5. 22)

(24) 登録日 平成20年4月23日 (2008. 4. 23)

(51) Int.Cl.

A 4 1 F 11/14 (2006.01)

F 1

A 4 1 F 11/14

評価書の請求 未請求 請求項の数 7 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号 実願2008-1164 (U2008-1164)

(22) 出願日 平成20年2月29日 (2008. 2. 29)

(73) 実用新案権者 504148653
上住 恵三
兵庫県赤穂市塩屋 2 番地の 7

(74) 代理人 100071434
弁理士 手島 孝美

(72) 考案者 上住 恵三
兵庫県赤穂市塩屋 2 番地の 7

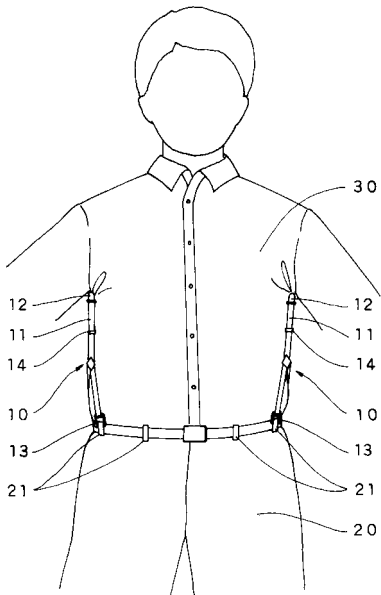
(54) 【考案の名称】 サスペンダー

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 肥満体で腹部の出っ張った人にも容易に使用でき、しかも肩凝りを招来することなく、確実にズボンのずり落ちを防止できるサスペンダーを提供する。

【解決手段】 ズボン 20 を吊り下げるサスペンダー 10 において、シャツ 30 の体側部位とズボンの上端部との間の距離に等しい長さを有し、ズボンを吊り下げる吊下げバンド 11 と、吊下げバンドの上端部に固定され、内面にシャツの体側部位をくわえ込むくわえ部 12 E が形成され、くわえ部の少なくとも表面がシャツを弾性挟持する軟質部材で構成された上側クリップ 12 と、吊下げバンドの下端部に固定され、ズボンの上端部を挟持し又は上端部のベルト通し 21 に引っ掛けられることによりズボンの上端部に係止される下側係止手段 12' , 13 と、を備える。

【選択図】 図 1



【実用新案登録請求の範囲】

【請求項 1】

ズボンを吊り下げるサスペンダーにおいて、

シャツの体側部位と上記ズボンの上端部との間の距離に等しい長さを有し、上記ズボンを吊り下げる吊下げバンドと、

該吊下げバンドの上端部に固定され、内面に上記シャツの体側部位をくわえ込むくわえ部が形成され、該くわえ部の少なくとも表面が上記シャツを弾性挟持する軟質部材で構成された上側クリップと、

上記吊下げバンドの下端部に固定され、上記ズボンの上端部を挟持し又は該上端部のベルト通しに引っ掛けられることにより上記ズボンの上端部に係止される下側係止手段と、
を備えたことを特徴とするサスペンダー。

10

【請求項 2】

上記吊下げバンドは、上記シャツの脇下部位から上記ズボンの上端部との間に延びる長さを有する請求項 1 記載のサスペンダー。

【請求項 3】

上記吊下げバンドは、直線状、H 状、X 字状又は逆 Y 字状に構成されている請求項 1 又は 2 記載のサスペンダー。

【請求項 4】

上記上側クリップのくわえ部は、断面三角形状又は複数の断面三角形状を横方向に並べた断面形状をなしている請求項 1 記載のサスペンダー。

20

【請求項 5】

上記上側クリップのくわえ部は、上記上側クリップの横幅方向に延びて形成されている請求項 4 記載のサスペンダー。

【請求項 6】

上記下側係止手段は、上記ズボンの上端部を挟み込むクリップである請求項 1 記載のサスペンダー。

【請求項 7】

上記下側係止手段は、上記ズボンのベルト通しに引っ掛けられるフックである請求項 1 記載のサスペンダー。

【考案の詳細な説明】

30

【技術分野】

【0001】

本考案はサスペンダーに関し、特に肥満体で腹部の出っ張った人にも容易に使用でき、しかも肩凝りを招来することなく、確実にズボンのずり落ちを防止できるようにしたサスペンダーに関する。

【背景技術】

【0002】

サスペンダーは例えば肥満体で腹部の出っ張った人がズボンを履いたときに、ズボンがずり下がるのを防ぐために用いられることが多い。

【0003】

40

従来のサスペンダーでは吊下げバンドを Y 形状、H 形状又は X 形状に形成し、吊下げバンドの端部にクリップを固定し、ズボンの背中側の部位にクリップをかみ込ませ、吊下げバンドを肩から前方に回してズボンの腹部側部位にクリップをかみ込ませてズボンを肩から吊り下げるといった肩掛け方式が一般的であった（特許文献 1）。

【0004】

しかし、吊下げバンドを肩に掛けると、肩には荷重が長時間にわたって加わるので、肩が凝ることが多く、これがサスペンダーの普及を妨げる 1 つの原因となっていた。

【0005】

これに対し、腰ベルトを腰部に廻して締め、腰ベルトから複数の吊下げバンドを吊り下げ、吊下げバンド先端のクリップをズボンの上端部をかみ込ませてズボンを腰から吊り下

50

げるようにした腰吊り方式が提案されている（特許文献２）。

【０００６】

【特許文献１】特開平１１－３２５００８号公報

【特許文献２】実用新案登録第３１０２１７２号公報

【考案の開示】

【考案が解決しようとする課題】

【０００７】

しかし、特許文献２記載の腰吊り方式は腰のくびれた女性には楽に使用できるものの、肥満体で腹部の出っ張った人にとっては腰ベルトを締めつけても腰部に保持しておくのが難しいので、腰ベルトをきつく締めつけると窮屈感や締め付け感が激しく、到底使用できないものであった。

10

【０００８】

本考案は、かかる問題点に鑑み、肥満体で腹部の出っ張った人にも容易に使用でき、しかも肩凝りを招来することなく、確実にズボンのずり落ちを防止できるようにしたサスペンダーを提供することを課題とする。

【課題を解決するための手段】

【０００９】

そこで、本考案に係るサスペンダーは、ズボンを吊り下げるサスペンダーにおいて、シャツの体側部位と上記ズボンの上端部との間の距離に等しい長さを有し、上記ズボンを吊り下げる吊下げバンドと、該吊下げバンドの上端部に固定され、内面に上記シャツの体側部位をくわえ込むくわえ部が形成され、該くわえ部の少なくとも表面が上記シャツを弾性挟持する軟質部材で構成された上側クリップと、上記吊下げバンドの下端部に固定され、上記ズボンの上端部を挟持し又は該上端部のベルト通しに引っ掛けられることにより上記ズボンの上端部に係止される下側係止手段と、を備えたことを特徴とする。

20

【００１０】

本考案の特徴の１つは吊下げバンドによってシャツの体側部位からズボンを吊り下げるようにした点にある。これにより、吊下げバンドが肩に掛けられないので、肩に負担が加わらず、サスペンダーに起因する肩凝りが懸念されることがない。

【００１１】

また、シャツの体側部位からズボンを吊り下げるようにしたので、肥満体で腹部の出っ張った人であっても、特許文献２記載の腰吊り方式のように腹部廻りの窮屈感を感じることもなく、ズボンを快適にかつ確実に吊り下げておくことができる。

30

【００１２】

吊下げバンドはシャツの体側部位からズボンを吊り下げることができる長さであればよいが、使用中において上側クリップが肌に当たる違和感を考慮すると、例えば吊下げバンドはシャツの脇下部位からズボンの上端部との間に延びる長さとし、脇下から吊り下げるようにするのがよい。

【００１３】

ここで、シャツは肌着でもよく、肌着の上に着るＹシャツなどでもよい。吊下げバンドは伸縮性の少ない材料で製作してもよく、弾性のある材料で製作してもよい。

40

【００１４】

吊下げバンドはシャツの体側部位と上記ズボンの上端部との間の長さであることが重要であり、その形状は特に限定されず、直線状、Ｈ状、Ｘ字状又は逆Ｙ字状に構成されることができる。

【００１５】

上側クリップのくわえ部は少なくとも表面がシャツを弾性挟持する軟質部材、例えばゴムや軟質プラスチック材料で構成されることが重要である。肩掛け方式の場合には吊下げバンドによってシャツが傷むことは少ないが、シャツの体側部位をクリップでくわえ込むようにすると、くわえ込んだ部分にズボンの荷重が加わるので、シャツが損傷を受けるおそれがあるからである。

50

【0016】

上側クリップのくわえ部は表面に軟質部材の層を形成してもよく、金属製や硬質プラスチック製のクリップの内面に、全体を軟質部材で構成してたくわえ部を固着するようにしてもよく、又上側クリップの全体を比較的軟質の材料で構成するようにしてもよい。

【0017】

上側クリップのくわえ部は、断面三角形又は複数の断面三角形を横方向に並べた断面形状とすると、シャツの生地を傷めることなく、シャツをくわえ込んだ状態を長時間にわたって安定に維持できる。

【0018】

上側クリップのくわえ部は、シャツへのくい込みによる損傷を考慮すると、上側クリップの横幅方向に延びて、例えば全幅にわたって連続して又は半分ずつ形成されるのが好ましい。

【0019】

下側保持手段は、ズボンの上端部を挟み込むクリップであってもよく、ズボンのベルト通しに引っ掛けられるフックであってもよい。

【考案を実施するための最良の形態】

【0020】

以下、本考案を図面に示す具体例に基づいて詳細に説明する。図1及び図2は本考案に係るサスペンダーの好ましい実施形態を示す。図において、サスペンダー10は伸縮性のある逆Y字状の吊下げバンド11を用いて製作され、吊下げバンド11の上端には上側クリップ12が取付けられ、吊下げバンド11の2つの下端部にはフック（下側係止手段）13が取付けられている。

【0021】

上側クリップ12ではベース12Aの後端部に取り付けリング12Dが取付けられ、取り付けリング12Dには吊下げバンド11の上端部が挿通され折り返されて縫合されることによって取付けられている。

【0022】

ベース12Aの後部にはブラケット部が形成され、揺動片12Bの後端部が取付けピンによって揺動可能に取り付けられ、揺動片12B及びベース12Aの内面先端部にはくわえ部12Eが対向して固着され、くわえ部12Eは2つの断面三角形を横方向に並べた断面形状で、しかも上側クリップ12の幅方向のほぼ全幅にわたって延びる形状に形成されている。

【0023】

また、上側クリップ12のブラケット部には揺動片12Bの取り付けピンによって押さえ片12Cが揺動可能に取り付けられ、押さえ片12Cの下端には爪が折り曲げて形成され、押さえ片12Cが揺動片12Bに向けて押さえられることによって爪が揺動片12Bをベース12Aに向けて押し込んで保持するようになっている。

【0024】

吊下げバンド11の途中には長さ調整機構14が設けられ、長さ調整機構14はベース14Aと係止片14Bとから構成され、ベース14Aには吊下げバンド11が挿通されるとともに係止片14Bの先端が揺動可能に連結されており、係止片14Bをベース14A側に倒すことによって吊下げバンド11と係止片14Bとが競られて吊下げバンド11がベース14Aに対して抜止めされるようになっている。

【0025】

吊下げバンド11の下方部位は2つに分岐され、その2つの下端部はフック13のリング部分に挿通され折り返されて縫合されることによって2つの下端部にはフック13が取付けられ、フック13はズボン20のベルト通し21に引っ掛けられるようになっている。なお、フック13の形状は図2のものに限定されず、ベルト通し21に引っ掛けることができれば他の形状であってもよい。また、フック13をベルト通し21に引っ掛けた後、ストッパーによって開放部分を塞いで抜止めするように構成してもよい。

【0026】

本例のサスペンダー10を使用する場合、サスペンダー10の長さ調整機構14を操作して吊下げバンド11の長さを、シャツ30の脇下部位からズボン20のベルト通し21までの間の距離に等しい長さに調整した後、サスペンダー10の上側クリップ12にシャツ30の脇下部位の適当な箇所、例えば脇下の縫合箇所をくわえ込ませる。この操作をシャツ30の着用後に行うと、吊下げバンド11を下方に引っ張ってフック13をズボン20のベルト通し21に引っ掛けるのに大きな力が必要となるので、シャツ30を着用する前に行っておくのがよい。

【0027】

次に、シャツ30を着用した後、吊下げバンド11を下方に引っ張りながら、吊下げバンド11の両下端のフック13をズボン20の体側に位置するベルト通し21に引っ掛けると、ズボン20を引き上げた状態に保持することができ、ズボン20のずり下がり防止することができる。

10

【0028】

このように、シャツ30の脇下部位から吊下げバンド11によってズボン20が吊り下げられ、吊下げバンド11が肩に掛けられないので、肩に負担が加わらず、サスペンダー10に起因する肩凝りが引き起こされることがない。

【0029】

また、シャツ30の脇下部位からズボン20を吊り下げたので、肥満体で腹部の出っ張った人であっても、腰吊り方式（実用新案登録第3102172号公報）のように腹部廻りの窮屈感を感じることなく、ズボン20を快適にかつ確実に吊り下げることができる。

20

【0030】

図3は第1の実施形態の変形例を示し、図1及び図2と同一符号は同一又は相当部分を示す。図3の(a)は吊下げバンド11を直線状に構成した例である。図3の(b)は吊下げバンド11をH字状に構成した例である。図3の(c)は吊下げバンド11をX字状に構成した例である。

【0031】

図4は第2の実施形態を示し、図において図1及び図2は同一又は相当部分を示す。本例では吊下げバンド11の2つの下端部に、フック13に代え、ズボン20の上端部分をくわえ込むクリップ（下側保持手段）12'を取付けている。このクリップ12'は第1の実施形態における上側クリップ12と同一の構造に形成されている。なお、便宜上、番号に'を付すことによって上側クリップ12と区別している。このように、フック13に代え、クリップ12'を用いることもできる。吊下げバンド11の形状は図3に示す直線状、H字状、X字状であってもよい。

30

【図面の簡単な説明】

【0032】

【図1】本考案に係るサスペンダーの好ましい実施形態の使用例を示す概略図である。

【図2】上記実施形態を示す正面図である。

【図3】上記実施形態の変形例を示す図である。

40

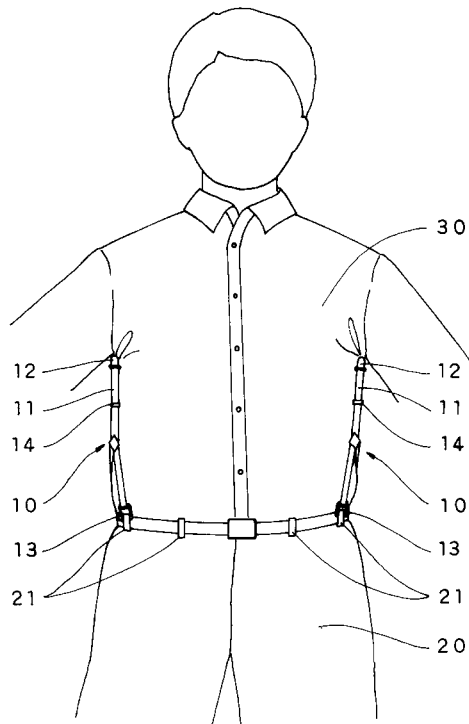
【図4】第2の実施形態を示す正面図である。

【符号の説明】

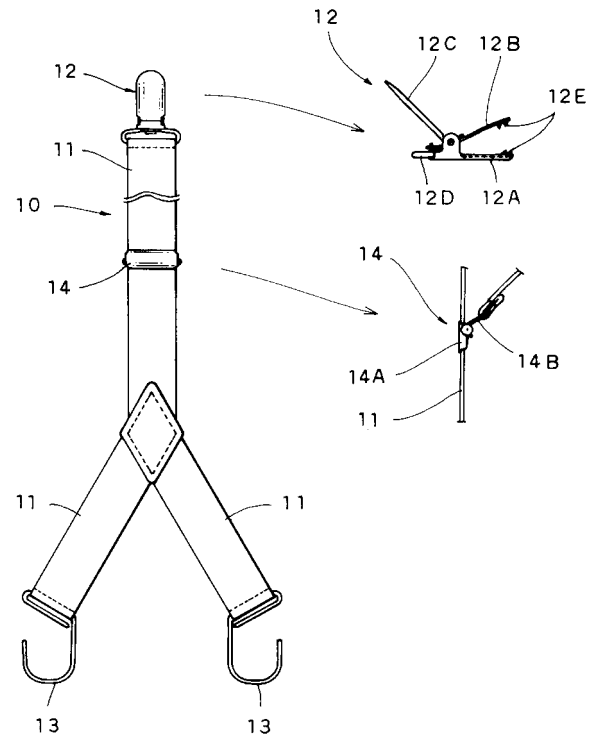
【0033】

10	サスペンダー	11	吊下げバンド
12	上側クリップ	12E	くわえ部
12'	クリップ（下側保持手段）		
13	フック（下側保持手段）		
20	ズボン	21	ベルト通し
30	シャツ		

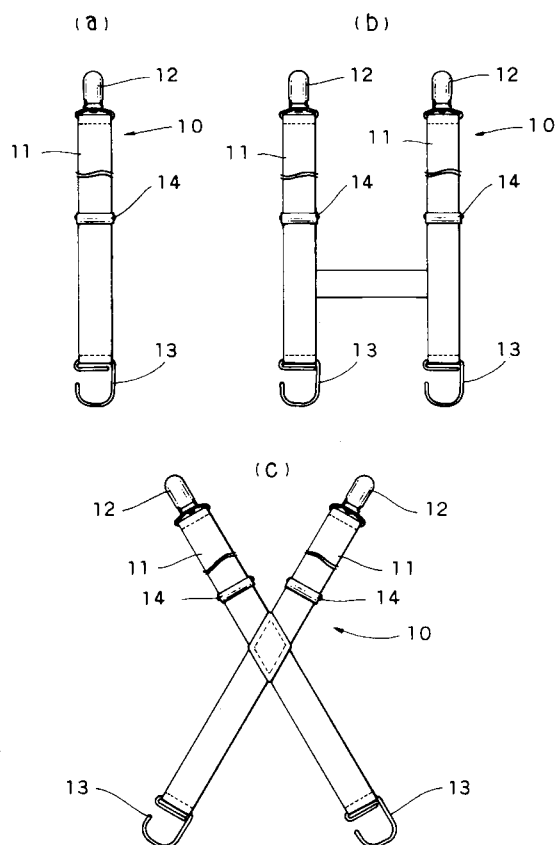
【図 1】



【図 2】



【図 3】



【図 4】

